

注3

大学番号：290

[平成30年度設置]

計画の区分： 学部設置

注1

認可

西九州大学 看護学部 看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 永原学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

事務局次長 ヤマナカ タクマサ
山中 健正
総務課長 マツヤマ ミキ
松山 美紀

電話番号 0952-37-0249

（夜間） 0952-37-0132

F A X 0952-37-0259

e-mail nky_kango@nisikyu-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 永原学園

(2) 大 学 名

西九州大学

(3) 調査対象大学等の位置

小城キャンパス

〒845-0001 佐賀県小城市小城町176番地27

(神埼キャンパス

〒842-8585 佐賀県神崎市神埼町尾崎4490番地9)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクモト ユウジ) 福元 裕二 (平成20年4月)		
学 長	(フクモト ユウジ) 福元 裕二 (平成29年4月)		
学 部 長	(オカザキ ミチコ) 岡崎 美智子 (平成30年4月)		
学 科 長	(オカザキ ミチコ) 岡崎 美智子 (平成30年4月)	(ナカシマ ヨウコ) 中島 洋子 (平成31年4月)	平成31年4月着任のため(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	90 人	— 年次 人	360 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成２７年度		平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	90人 (—) [—]	—人 (—) [—]	90人 (—) [—]	—人 (—) [—]	1.05 倍	— 倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	185 (—) [—]	— (—) [—]	242 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	181 (—) [—]	— (—) [—]	236 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	148 (—) [—]	— (—) [—]	166 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	94 (—) [—]	— (—) [—]	97 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A							1.04		1.07				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	97 [-] (-)	- [-] (-)	
2 年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	94 [-] (-)	- [-] (-)	93 [-] (-)	- [-] (-)	
3 年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4 年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計							94 [-] (-)	- [-] (-)	190 [-] (-)	- [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	94 人	1 人	平成30年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学・転学
令和元年度	190 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{94} = \boxed{1.06} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{190} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 教育 科目	キャリア形成	あすなろうⅠ 基礎(初年次教育)	1通	2			7	7	13	5		
		あすなろうⅡ 応用(地域課題)	2通	2			7	7	13	5		
		あすなろうⅢ 臨地協働	3前	1			7	7	13	5		
	地域連携・学部間連携基礎	生活支援	1前		2				2			兼7 兼8
		地域連携	1後		2							
	人間と文化	心理学入門	1後	2								兼1
		現代社会と倫理	1前		2							兼1
		人間論と現代思想	1後		2							兼1
		文学と言語	1前		2							兼1
		生涯学習論	1前		2							兼1
		肥前の歴史と文化	1後		2							兼1
		脳と認知科学	1後		2							兼3
		法学	1前		2							兼1
	くらしの科学	日本国憲法	1後		2							兼1
		多文化社会学	1前		2							兼1
		くらしと経済	1前		2							兼1
		ジェンダー論	1後		2							兼1
		生命のしくみ	1前		2							兼1
		生物と環境	1後		2							兼1
		身近な生活の化学	1前		2							兼1
		統計学の基礎	1前		2							兼1
	健康スポーツ	身近な世界の物理	1前		2							兼1
		地球環境科学	1後		2							兼1
		健康運動科学	1前		2							兼1
		フィットネス・スポーツ	1前	1								兼2
	国際理解	ウェルネス・スポーツ	1後	1								兼2
		グローバル化と異文化共生	1前		2							兼1
		文化人類学	1後		2							兼1
変わりゆく国際社会を生きる 日本事情(Japanese & World Issues)		1後		2							兼4 兼7	
外国語による コミュニケーション理解	Basic English I Basic English II Global English I Global English II Academic English I 医療英語 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ Global Communication(English) 資格英語(ESP) 中国語 韓国語 日本語初級 日本語中級 日本語上級 語学研修	1後	1								兼1	
		2後	1									兼1
		1前	1									兼1
		2前	1									兼1
		3後		1								兼1
		2前		1								兼1
		1前		1								兼1
		1後		1								兼1
		1前		2								兼1
		3前		1								兼1
		1後		1								兼1
		1前		1								兼1
		3前		1								兼1
		3後		1								兼1
		3後		1								兼1
		1前		1								兼1
		ICTの理解	情報処理入門	1前	1							
情報処理基礎	1後		1								兼2	
小計(48科目)			—	16	60	0	7	7	13	5	0	兼46
専門 基礎 科目	いのちの科学	看護形態機能学Ⅰ	1前	2								兼1
		看護形態機能学Ⅱ	1後	2								兼1
		免疫と感染	1後	2								兼1
		臨床薬理学	2前	2								兼1
		病態栄養学	1後	2								兼4
		病理学	1後	2								兼1
		病態治療学Ⅰ(呼吸・循環器)	1後	2								兼1
		病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器)	1後	2								兼7
		病態治療学Ⅲ(筋・骨格・感覚器)	2前	2								兼1
		病態治療学Ⅳ(神経・精神・免疫)	2前	2								兼3
		病態治療学Ⅴ(小児の医療・婦人科医療)	2後	2								兼9
		リハビリテーション学	3前		2							兼1
	保健医療福祉 介護の仕組み	保健福祉行政論	2後	2		1						
		保健医療福祉制度	4後		1		1					
		公衆衛生学	1後	2		1						
		疫学	3前		2		1					
		保健統計学	2前		2		1					
小計(17科目)			—	26	7	0	1	0	0	0	0	兼31

【令和元年度】

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必修 修	選択 択	自由 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 教育 科目	キャリア形成	あすなろうⅠ 基礎(初年次教育等)	1通	2			7	4	9	3			
		あすなろうⅡ 応用(地域課題)	2通	2			5	3	9	5			
		あすなろうⅢ 臨地協働	3前	1			7	6	12	5			
	地域連携・学部間連携基礎	生活支援	1前		2				2			兼7 兼8	
		地域連携	1後		2								
	人間と文化	心理学入門	1前	2								兼1	
		現代社会と倫理	1前		2							兼1	
		人間論と現代思想	1後		2							兼1	
		文学と言語	1前		2							兼1	
		生涯学習論	1前		2							兼1	
		肥前の歴史と文化	1後		2							兼1	
		脳と認知科学	1後		2							兼3	
		法学	1前		2							兼1	
	くらしの科学	日本国憲法	1後		2							兼1	
		多文化社会学	1前		2							兼1	
		くらしと経済	1前		2							兼1	
		ジェンダー論	1後		2							兼1	
		生命のしくみ	1前		2							兼1	
		生物と環境	1後		2							兼1	
		身近な生活の化学	1前		2							兼1	
		統計学の基礎	1前		2							兼1	
	健康スポーツ	身近な世界の物理	1前		2							兼1	
		地球環境科学	1後		2							兼1	
		健康運動科学	1前		2							兼1	
		フィットネス・スポーツ	1前	1								兼2	
	国際理解	ウェルネス・スポーツ	1後	1								兼2	
		グローバル化と異文化共生	1前		2							兼1	
		文化人類学	1後		2							兼1	
変わりゆく国際社会を生きる 日本事情(Japanese & World Issues)		1後		2							兼7		
外国語による コミュニケーション理解	Basic EnglishⅠ	1後	1								兼1		
	Basic EnglishⅡ	2後	1								兼1		
	Global EnglishⅠ	1前	1								兼2		
	Global EnglishⅡ	2前	1								兼2		
	Academic EnglishⅠ	3後		1							兼1		
	医療英語	2前	1								兼1		
	英語コミュニケーションⅠ	2前		1							兼2		
	英語コミュニケーションⅡ	1後		1							兼2		
	Global Communication(English)	1前		2							兼2		
	資格英語(ESP)	3前		1							兼1		
	中国語	1前		1							兼1		
	韓国語	1後		1							兼1		
	ICTの理解	日本語初級	3前		1							兼1	
日本語中級		3後		1							兼1		
日本語上級		3後		1							兼1		
語学研修		1前		1							兼1		
情報処理入門		1前	1								兼1		
情報処理基礎		1後	1								兼1		
小計(48科目)			—	16	60	0	7	7	12	5	0	兼52	
専門 基礎 科目		いのちの科学	看護形態機能学Ⅰ	1前	2								兼1
			看護形態機能学Ⅱ	1後	2								兼1
			免疫と感染	1後	2								兼1
	臨床薬理学		2前	2								兼1	
	病態栄養学		1後	2								兼4	
	病理学		1後	2								兼1	
	病態治療学Ⅰ(呼吸・循環器)		1後	2								兼1	
	病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器)		1後	2								兼7	
	病態治療学Ⅲ(筋・骨格・感覚器)		2前	2								兼1	
	病態治療学Ⅳ(神経・精神疾患)		2前	2								兼3	
	病態治療学Ⅴ(小児の医療、婦人科医療)		2後	2								兼9	
	リハビリテーション学		3前		2							兼1	
	保健医療福祉 介護の仕組み	保健福祉行政論	2後	2			1						
		保健医療福祉制度	4後		1		1						
		公衆衛生学	1後	2			1						
		疫学	3前		2		1						
		保健統計学	2前		2		1						
小計(17科目)			—	26	7	0	1	0	0	0	0	兼31	

【平成30年度】

科目区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置				兼 任 ・ 兼 担				
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
共通 教育 科目	キャリア形成	あすなろうⅠ 基礎(初年次教育書)	1通	2			7	6	12	5					
		あすなろうⅡ 応用(地域課題)	2通	2			7	6	12	5					
		あすなろうⅢ 臨地協働	3前	1			7	6	12	5					
	地域連携・学部間連携基礎	生活支援	1前		2				2			兼7			
		地域連携	1後		2							兼8			
	人間と文化	心理学入門	1後	2									兼1		
		現代社会と倫理	1前		2								兼1		
		人間論と現代思想	1後		2								兼1		
		文学と言語	1前		2								兼1		
		生涯学習論	1前		2								兼1		
		肥前の歴史と文化	1前		2								兼1		
		脳と認知科学	1後		2								兼3		
		法学	1前		2								兼1		
		日本国憲法	1後		2								兼1		
	くらしの科学	多文化社会学	1前		2								兼1		
		くらしと経済	1前		2								兼1		
		ジェンダー論	1後		2								兼1		
		生命のしくみ	1前		2								兼1		
		生物と環境	1後		2								兼1		
		身近な生活の化学	1前		2								兼1		
		統計学の基礎	1前		2								兼1		
		身近な世界の物理・ 地球環境科学	1前		2								兼1		
	健康スポーツ	健康運動科学	1後		2								兼1		
		フィットネス・スポーツ	1前	1									兼2		
		ウェルネス・スポーツ	1後	1									兼2		
	国際理解	グローバル化と異文化共生	1前		2								兼1		
		文化人類学	1後		2								兼1		
		変わりゆく国際社会を生きる 日本事情(Japanese & World Issues)	1後		2								兼3 兼7		
	外国語による コミュニケーション理解	Basic English I	1後	1									兼1		
		Basic English II	2後	1									兼1		
		Global English I	1前	1									兼2		
		Global English II	2前	1									兼1		
Academic English I		3後		1								兼1			
医療英語		2前	1									兼1			
英語コミュニケーションⅠ		1前		1								兼2			
英語コミュニケーションⅡ		1後		1								兼2			
Global Communication(English)		1前		2								兼2			
資格英語(ESP)		3前		1								兼1			
中国語		1前		1								兼1			
韓国語		1後		1								兼1			
日本語初級		3前		1								兼1			
日本語中級		3後		1								兼1			
日本語上級		3後		1								兼1			
語学研修		1前		1								兼1			
ICTの理解	情報処理入門	1前	1									兼1			
	情報処理基礎	1後	1									兼1			
小計(48科目)				—	16	60	0	7	7	12	5	0	兼49		
専 門 基 礎 科 目	いのちの科学	看護形態機能学Ⅰ	1前	2									兼1		
		看護形態機能学Ⅱ	1後	2									兼1		
		免疫と感染	1後	2									兼1		
		臨床薬理学	2前	2									兼1		
		病態栄養学	1後	2									兼4		
		病理学	1後	2									兼1		
		病態治療学Ⅰ(呼吸・循環器)	1後	2									兼1		
		病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器)	1後	2									兼7		
		病態治療学Ⅲ(筋・骨格・感覚器)	2前	2									兼1		
		病態治療学Ⅳ(神経・聴覚・精神疾患)	2前	2									兼3		
		病態治療学Ⅴ(小児の疾病・婦人科疾患)	2後	2									兼9		
		リハビリテーション学	3前		2								兼1		
	保健医療福祉 介護の仕組み	保健福祉行政論	2後	2			1								
		保健医療福祉制度	4後		1		1								
		公衆衛生学	1後	2			1								
		疫学	3前		2		1								
		保健統計学	2前		2		1								
		小計(17科目)				—	26	7	0	1	0	0	0	兼31	
		看護基盤学 領域	看護学原論	1前	2			2	1						
			看護理論学	4前	2			1							
看護過程論	2前		2				1	2		1					
フィジカルアセスメント	2後		2				1	2		1					
生活支援技術論	1前		2				1	2		1					
生活支援技術論演習	1後		2				1	2		1					
臨床関連技術論演習	2前		2				2	3		1					
自己開発学	1後			2		1						兼2			
自己開発学演習	2後			2		1						兼2			
自己開発学実習	4後			2		1						兼2			
生活支援論実習	1後		1			6	6	12	5						
看護過程論実習	2前		2			6	6	12	5						
小計(12科目)				—	17	6	0	6	6	12	5		兼2		

専門 教育科目	専門 科目	看護実践学 領域	成人看護学概論	2前	2				1											
			成人看護学方法論	2後	2				1		1	1								
			成人看護学方法論	3前	2				1	1										
			看護診断論	2前	1							1	1							
成人看護学実習Ⅰ	3後		3				2	1	1	1	1									
成人看護学実習Ⅱ	3後		3				2	1	1	1	1									
老年看護学概論	2前		2				1													
老年看護学方法論	2後		2				1				2									
老年看護学実習	3後		4				1				2									
精神看護学概論	2後		2					1												
精神看護学方法論	3前		2					1		1		1								
精神看護学実習	3後		2					2			1		1							
母性看護学概論	2後		2					1												
母性看護学方法論	3前		2						1	2										
母性看護学実習	3後		2								1	2								
小児看護学概論	2後		2					1												
小児看護学方法論	3前		2					1	1											
小児看護学実習	3後		2					1	1											
		小計(18科目)		—	39	0	0	4	4	6	1								兼0	
		看護 マジョ リタ ー群	在宅看護学概論	2後	2				1											
			在宅看護学方法論	3前	2				1		1	2								
			在宅看護学実習	3前	2				1		1	2								
			関連職種連携論	2後	2				4	1	2									
			関連職種連携演習	3前		2			7	7	12	5								
			関連職種連携実習	3前		2	4		4	4	7	4								
			家族看護学	2後	2				2											
			ターミナルケア論	2後	2				2		1									
			看護倫理学	4前	2				1	1	1									
			看護 管理・ 教育学 群	看護教育学	4後		2			1		2								
		看護管理学		4後		2					1									
		看護管理実習		4前		2		2	2	2	5	1								
		看護 探求群	看護研究方法論	3前	2				2	2	1									
			看護研究ゼミナール	4通	2				7	7	12									
			看護シミュレーション演習	4後		2				2	1									
		看護 発展群	国際看護学	4後		2														
			災害看護学	4後		2														
			助産学概論	4前		2				1										
			公衆衛生看護学概論	3前		2				1	1									
			健康教育学	3前		2					1	2	1							
			学校保健概論	2前		2				2										
			産業保健概論	2後		2				1	2	1								
			クリティカルケア	4後		2				2		1								
			高度医療と看護	4後		2						1	1							
			補充・代替医療	4後		2														
		認知症ケア	4後		2				1											
		公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護学概論(兼任・組織支援)	3前		2				1	2	1								
			公衆衛生看護学方法論Ⅰ(地域診断)	4前		2				1	2	1								
			公衆衛生看護学方法論Ⅱ(技術演習)	4前		2					1	2	1							
			公衆衛生看護学管理論	4後		2					1	2	1							
			公衆衛生看護学実習Ⅰ(行政)	4前		3				3	1	2	1							
			公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	4前		1					1	2	1							
			公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	4前		1					1	2	1							
			小計(33科目)		—	16	49	0	7	7	12	5	0						兼13	
		合計 (128科目)		—	114	122	0	7	7	12	5	0						兼90		
卒業要件及び履修方法																				
共通教育科目必修16単位、「地域連携・学部間関連連携基礎」「人間と文化」「くらしの科学」「健康スポーツ」「国際理解」の選択科目より4単位以上、「外国語コミュニケーション」の選択科目より2単位以上、選択必修。 専門教育科目必修98単位、「看護統合学領域」の選択科目より6単位以上(関連職種連携実習又は看護管理実習いずれかを含むこと)選択必修。合計126単位以上で修得すること。																				

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

・准教授1名が本学にて平成30年より新設した「教職センター」の兼務となったため、業務軽減のため「あすなろⅠ基礎（初年次教育舎）」、「あすなろⅡ応用（地域課題）」、「あすなろⅢ臨地協働」の教員配置を「准教授」から「准教授6」に変更。

・平成31年度着予定講師1名の就任辞退の申しあげがあったため、「あすなろⅠ基礎（初年次教育舎）」、「あすなろⅡ応用（地域課題）」、「あすなろⅢ臨地協働」、「生活支援論実習」、「看護課程論実習」、「精神看護学方法論」、「精神看護学実習」、「関連職種連携演習」、「家族看護学」、「看護研究法論」、「看護研究ゼミナール」の講師数を1名減とした。後任者については公募を行う予定である。

・兼任教員の近去のため、「変わりゆく国際社会を生きる」の教員は位置を「兼4」より「兼3」へ変更。

・兼任教員との本務先勤務時間との調整が付かなかったため、「Global EnglishⅠ」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。

・全学部共通で開講し、希望者数が多いため、「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」の教員配置を「兼1」から「兼2」へ変更。

・留学生との交流等の演習を授業内容に多く含むため教育的効果を考慮し、「Global Communication(English)」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。

・全学部で開講期の見直しを行い、「中国語」を「後1」から「前1」に、「韓国語」を「前1」から「後1」に変更。

・教育的効果を考慮し、「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理基礎」の教員配置を「兼2」から「兼1」とした。

【令和元年度】

- ・ 教育的効果を考慮したゼミ数の配置により、「あすなろうⅠ基礎（初年次教育含）」の教員配置を准教授は「6」から「4」、講師は「12」から「9」、助教は「5」から「3」に変更。
- ・ 教育的効果を考慮したゼミ数の配置により、「あすなろうⅡ（地域課題）」の教員配置を教授は「7」から「5」准教授は「6」から「3」、講師は「12」から「9」に変更。
- ・ 前後期の開講科目数の割合を見直し、学生の時間割負担を軽減するため「心理学入門」を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 時間割編成の都合上「Global EnglishⅡ」の教員を「兼1」から「兼2」へ変更。
- ・ 専任教員の退職のため「看護過程論」、「生活支援技術論」、「生活支援技術論演習」、「臨床関連技術論演習」、「生活支援論実習」、「看護過程論実習」、「関連職種連携論」、「関連職種連携演習」、「関連職種連携実習」「看護研究ゼミナール」の講師数を1名減とした。後任者については募集を行う予定であるが、「看護過程論」、「生活支援技術論」、「生活支援技術論演習」、「臨床関連技術論演習」「関連職種連携論」については現在着任をしている専任教員の科目追加として専任教員資格審査を申請中である。
- ・ 平成31年度就任予定講師1名の就任辞退に伴い、専任教員を補充し専任教員資格審査を申請したが、「老年看護学方法論」及び「老年看護学実習」の判定が不可であったため、講師数を「2」から「1」へ変更。今後後任の募集を行い補充する予定である。
- ・ 森田夏代講師の就任時期が10月からとなり、また教育的効果を考慮し、「看護診断論」を「2前」より「2後」へ変更。
- ・ 前後期の開講科目数の割合を見直し、学生の時間割負担を軽減するため「精神看護学概論」を「2後」から「2前」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
61 科目	67 科目	0 科目	128 科目	61 科目 [0]	67 科目 [0]	0 科目 [0]	128 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

該当なし

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分			内 容					備考		
(1)校地等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		西九州大学短期大学部 (必要面積3,800㎡)と共用 借用面積： 3,971.07㎡ 借用期間：30年		
	校 舎 敷 地		39,900.44㎡	1,300.53㎡	11,951.11㎡	53,152.08㎡				
	運動場用地		18,813.00㎡	8,263.78㎡	0㎡	27,076.78㎡				
	小 計		58,713.44㎡	9,564.31㎡	11,951.11㎡	80,228.86㎡				
	そ の 他		61,668.22㎡	3,834.07㎡	0㎡	65,502.29㎡				
	合 計		120,381.66㎡	13,398.38㎡	11,951.11㎡	145,731.15㎡				
(2) 校 舎			専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		西九州大学短期大学部 (必要面積3,900㎡)と共用		
			31,822.14㎡	1,300.53㎡	12,137.84㎡	45,260.51				
			(31,822.14㎡)	(1,300.53㎡)	(12,137.84㎡)	(45,260.51㎡)				
(3) 教 室 等			講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	申請学部全体		
			8室	11室	9室	1室 (補助職員 1人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室			新設学部等の名称			室 数		申請学部全体		
			看護学部 看護学科			29 室				
(5)図書・設備	新設学部等の名称		図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	申請学部全体	
	看護学部		5,808 [703] (5,808 [703])	42 [6] (42 [6])	2 [0] (2 [0])	198 (198)	18,370 (10,344)	87 (87)		
	計		5,808 [703] (5,808 [703])	42 [6] (42 [6])	2 [0] (2 [0])	198 (198)	18,370 (10,344)	87 (87)		
(6) 図 書 館			面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
			1,923.00㎡		303席		220,000冊			
(7) 体 育 館			面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
			3,267㎡		トレーニングセンター 242㎡	テニスコート 2面	弓道場 89㎡	—		
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	申請学部全体 H29.11.2文部科学省私学部 私学行政課法人係/神藤様 へ事務相談の上、セキュリティ設備は完成年度までに申請額 全額を投資することで延期 のご了承を得ております。 (元)	
		教員 1 人 当 り 研究費等		600千円	600千円	図書購入費	31,900千円	2,000千円		2,000千円
		共 同 研 究 費 等		1,500千円	1,500千円	設備購入費	416,578千円	5,000千円 7,665千円		14,207千円
	学生 1 人 当 り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
		1,550千円	1,360千円	1,370千円	1,380千円	— 千円	— 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	西 九 州 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
健康栄養学部	4	120	-	480	-	0.73	-	平成26	-	
健康栄養学科	4	120	-	480	学士 (健康栄養学)	0.73	-	平成26	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9	
健康福祉学部	4	130	3年次 10人	540	-	0.69	-	平成13	同上	
社会福祉学科	4	80	3年次 10人	340	学士 (社会福祉学)	0.48	-	昭和49	同上	
スポーツ健康福祉学科	4	50	-	200	学士 (スポーツ健康福祉学)	1.02	-	平成26	同上	
リハビリテーション学部	4	80	-	320	-	0.56	-	平成19	同上	
リハビリテーション学科	4	80	-	320	-	0.56	-	平成19	同上	
理学療法専攻	4	40	-	160	学士 (理学療法学)	0.55	-	平成19	同上	
作業療法専攻	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	0.57	-	平成19	同上	
子ども学部	4	120	3年次 10人	500	-	1.10	-	平成21	-	
子ども学科	4	80	3年次 10人	340	学士 (子ども学)	1.08	-	平成21	佐賀県佐賀市神園3-18-15	
心理カウンセリング学科	4	40	-	160	学士 (臨床心理学)	1.12	-	平成26	同上	
看護学部	4	90	-	180	-	1.07	平成30	平成30	-	※看護学科 平成30年度新設のため 収容定員90名
看護学科	4	90	-	180	学士 (看護学)	1.07	平成30	平成30	佐賀県佐賀県小城市小城市176-27	
大学全体	4	540	20	2,020	-	0.83	-	-	-	
大学院										
生活支援科学研究科										
健康栄養学専攻	2	2	-	4	修士 (健康栄養学)	0.50	-	平成26	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9	
臨床心理学専攻	2	5	-	10	修士 (臨床心理学)	1.40	-	平成26	佐賀県佐賀市神園3-18-15	
リハビリテーション学専攻	2	3	-	6	修士 (リハビリテーション学)	2.00	-	平成26	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9	
子ども学専攻	2	3	-	6	修士 (子ども学)	1.00	-	平成27	佐賀県佐賀市神園3-18-15	
地域生活支援学専攻 (博士前期課程)	2	5	-	10	修士 (生活支援学)	0.80	-	平成27	同上	
地域生活支援学専攻 (博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (生活支援学)	2.33	-	平成27	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9	
大学院全体	-	21	-	45	-	1.33	-	-	-	
大 学 の 名 称	西九州大学短期大学部									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍				
地域生活支援学科	2	100	-	200	短期大学士 (地域生活支援学)	0.70	-	平成29	佐賀県佐賀市神園3-18-15	
幼児保育学科	2	90	-	180	短期大学士 (保育学)	0.95	-	昭和40	同上	
大学全体	2	190	-	380	-	0.82	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専 教授		岡崎 美智子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		看護学原論 ※
		看護理論学
		自己開発学
		自己開発学演習
		自己開発学実習
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		関連職種連携演習
		看護倫理学 ※
		看護教育学
		看護管理実習
		看護研究ゼミナール
専 教授		白田 久美子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		看護学原論 ※
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		成人看護学概論
		成人看護学方法論Ⅰ
		成人看護学実習Ⅰ
		成人看護学実習Ⅱ
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		ターミナルケア論 ※
		看護研究ゼミナール
		クリティカルケア ※
専 教授		鷹居 樹八子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		成人看護学方法論Ⅱ
		成人看護学実習Ⅰ
		成人看護学実習Ⅱ
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		看護研究ゼミナール
専 教授		中島 洋子 ＜平成31年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		老年看護学概論
		老年看護学方法論 ※
		老年看護学実習
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		家族看護学 ※
		看護研究方法論 ※
		看護研究ゼミナール
		クリティカルケア ※
		認知症ケア
専 教授		北原 悦子 ＜平成32年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		小児看護学概論
		小児看護学方法論
		小児看護学実習
		関連職種連携演習
		看護管理実習
		看護研究方法論 ※
		看護研究ゼミナール

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専 教授		岡崎 美智子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		看護学原論 ※
		看護理論学
		自己開発学
		自己開発学演習
		自己開発学実習
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		関連職種連携演習
		看護倫理学 ※
		看護教育学
		看護管理実習
		看護研究ゼミナール
専 教授		白田 久美子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		看護学原論 ※
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		成人看護学概論
		成人看護学方法論Ⅰ
		成人看護学実習Ⅰ
		成人看護学実習Ⅱ
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		ターミナルケア論 ※
		看護研究ゼミナール
		クリティカルケア ※
専 教授		鷹居 樹八子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		成人看護学方法論Ⅱ
		成人看護学実習Ⅰ
		成人看護学実習Ⅱ
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		看護研究ゼミナール
専 教授		中島 洋子 ＜平成31年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		老年看護学概論
		老年看護学方法論 ※
		老年看護学実習
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		家族看護学 ※
		看護研究方法論 ※
		看護研究ゼミナール
		クリティカルケア ※
		認知症ケア
専 教授		北原 悦子 ＜平成32年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		小児看護学概論
		小児看護学方法論
		小児看護学実習
		関連職種連携演習
		看護管理実習
		看護研究方法論 ※
		看護研究ゼミナール

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専 教授		岡崎 美智子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		看護学原論 ※
		看護理論学
		自己開発学
		自己開発学演習
		自己開発学実習
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		関連職種連携演習
		看護倫理学 ※
		看護教育学
		看護管理実習
		看護研究ゼミナール
専 教授		白田 久美子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		看護学原論 ※
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		成人看護学概論
		成人看護学方法論Ⅰ
		成人看護学実習Ⅰ
		成人看護学実習Ⅱ
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		ターミナルケア論 ※
		看護研究ゼミナール
		クリティカルケア ※
専 教授		鷹居 樹八子 ＜平成30年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		成人看護学方法論Ⅱ
		成人看護学実習Ⅰ
		成人看護学実習Ⅱ
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		看護研究ゼミナール
専 教授		中島 洋子 ＜平成31年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		老年看護学概論
		老年看護学方法論 ※
		老年看護学実習
		関連職種連携論 ※
		関連職種連携演習
		関連職種連携実習
		家族看護学 ※
		看護研究方法論 ※
		看護研究ゼミナール
		クリティカルケア ※
		認知症ケア
専 教授		北原 悦子 ＜令和2年4月＞
		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）
		あすなろうⅢ 臨地協働
		生活支援論実習
		看護過程論実習
		小児看護学概論
		小児看護学方法論
		小児看護学実習
		関連職種連携演習
		看護管理実習
		看護研究方法論 ※
		看護研究ゼミナール

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		人間論と現代思想 変わりゆく国際社会を生きる
兼任	教授	平川 忠敏 ＜平成30年10月＞ 心理学入門
兼任	教授	香川 せつ子 ＜平成30年4月＞ 生涯学習論 ジェンダー論
兼任	教授	小浦 誠吾 ＜平成30年10月＞ 脳と認知科学
兼任	教授	酒井 出 ＜平成30年4月＞ 多文化社会学 変わりゆく国際社会を生きる
兼任	教授	田中 雲治 ＜平成30年10月＞ 変わりゆく国際社会を生きる
兼任	教授	柳田 晃良 ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & world Issues)
兼任	教授	古賀 浩二 ＜平成30年4月＞ 情報処理入門 情報処理基礎
兼任	教授	石松 秀 ＜平成30年10月＞ 病態栄養学 ※
兼任	教授	庄野 菜穂子 ＜平成31年4月＞ 病態治療学Ⅳ（神経・腫瘍・精神疾患） ※
兼任	教授	太田 保之 ＜平成31年4月＞ 病態治療学Ⅳ（神経・腫瘍・精神疾患） ※
兼任	教授	坂田 周一 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	高尾 兼利 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	池田 久剛 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	櫻井 琴音 (63) ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	教授	西村 喜文 ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	准教授	山田 力也 ＜平成30年4月＞ 生活支援 フィットネス・スポーツ
兼任	准教授	田中 麻里 ＜平成30年4月＞ 生活支援
兼任	准教授	利光 恵 ＜平成30年10月＞ 地域連携
兼任	准教授	近藤 芳昭 ＜平成30年10月＞ ウェルネス・スポーツ 関連職種連携論
兼任	准教授	渡邊 真理子 ＜平成30年10月＞ 変わりゆく国際社会を生きる Academic English I
兼任	准教授	大田尾 浩 ＜平成32年4月＞ リハビリテーション学
兼任	准教授	江口 賀子 ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	講師	加藤 稔子 ＜平成30年4月＞ 生活支援
兼任	講師	岡部 由紀夫 ＜平成30年4月＞ 地域連携
兼任	講師	飯盛（小倉）啓生 ＜平成30年10月＞ 地域連携 地球環境科学
兼任	講師	甲木 秀典 ＜平成30年4月＞ 健康運動科学 関連職種連携演習
兼任	講師	園部 ニコル ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & World Issues) Global Communication (English) 語学研修
兼任	講師	熊川 景子 ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & World Issues) 病態栄養学 ※
兼任	講師	三隅 幸子 ＜平成30年10月＞ 病態栄養学 ※ 関連職種連携論 関連職種連携演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		人間論と現代思想 変わりゆく国際社会を生きる
兼任	教授	香川 せつ子 ＜平成30年4月＞ 生涯学習論 ジェンダー論
兼任	教授	小浦 誠吾 ＜平成30年10月＞ 脳と認知科学
兼任	教授	田中 雲治 ＜平成30年10月＞ 変わりゆく国際社会を生きる
兼任	講師	柳田 晃良 ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & world Issues)
兼任	教授	古賀 浩二 ＜平成30年4月＞ 情報処理基礎
兼任	教授	石松 秀 ＜平成30年10月＞ 病態栄養学 ※
兼任	教授	庄野 菜穂子 ＜平成31年4月＞ 病態治療学Ⅳ（神経・腫瘍・精神疾患） ※
兼任	教授	太田 保之 ＜平成31年4月＞ 病態治療学Ⅳ（神経・腫瘍・精神疾患） ※
兼任	教授	坂田 周一 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	高尾 兼利 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	池田 久剛 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	櫻井 琴音 (63) ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	教授	西村 喜文 ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	准教授	山田 力也 ＜平成30年4月＞ 生活支援 フィットネス・スポーツ
兼任	准教授	田中 麻里 ＜平成30年4月＞ 生活支援
兼任	准教授	利光 恵 ＜平成30年10月＞ 地域連携
兼任	准教授	近藤 芳昭 ＜平成30年10月＞ ウェルネス・スポーツ 関連職種連携論
兼任	准教授	渡邊 真理子 ＜平成30年10月＞ 変わりゆく国際社会を生きる Academic English I
兼任	准教授	大田尾 浩 ＜平成32年4月＞ リハビリテーション学
兼任	准教授	江口 賀子 ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	講師	加藤 稔子 ＜平成30年4月＞ 生活支援
兼任	講師	岡部 由紀夫 ＜平成30年4月＞ 地域連携
兼任	講師	飯盛（小倉）啓生 ＜平成30年10月＞ 地域連携 地球環境科学
兼任	講師	甲木 秀典 ＜平成30年4月＞ 健康運動科学 関連職種連携演習
兼任	講師	園部 ニコル ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & World Issues) Global Communication (English) 語学研修
兼任	講師	熊川 景子 ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & World Issues) 病態栄養学 ※
兼任	講師	三隅 幸子 ＜平成30年10月＞ 病態栄養学 ※ 関連職種連携論 関連職種連携演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		人間論と現代思想 変わりゆく国際社会を生きる
兼任	講師	香川 せつ子 ＜平成30年4月＞ 生涯学習論
兼任	教授	小浦 誠吾 ＜平成30年10月＞ 脳と認知科学
兼任	教授	田中 雲治 ＜平成30年10月＞ 変わりゆく国際社会を生きる
兼任	講師	柳田 晃良 ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & world Issues)
兼任	教授	古賀 浩二 ＜平成30年4月＞ 情報処理基礎
兼任	教授	石松 秀 ＜平成30年10月＞ 病態栄養学 ※
兼任	教授	庄野 菜穂子 ＜平成31年4月＞ 病態治療学Ⅳ（神経・腫瘍・精神疾患） ※
兼任	教授	坂田 周一 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	高尾 兼利 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	池田 久剛 ＜平成31年10月＞ 関連職種連携論
兼任	教授	櫻井 琴音 (64) ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	教授	西村 喜文 ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	教授	山田 力也 ＜平成30年4月＞ 生活支援
兼任	教授	福本 敏雄 ＜平成31年4月＞ フィットネス・スポーツ
兼任	准教授	田中 麻里 ＜平成30年4月＞ 生活支援
兼任	准教授	利光 恵 ＜平成30年10月＞ 地域連携
兼任	准教授	近藤 芳昭 ＜平成30年10月＞ ウェルネス・スポーツ 関連職種連携論
兼任	准教授	渡邊 真理子 ＜平成30年10月＞ 変わりゆく国際社会を生きる Academic English I
兼任	准教授	大田尾 浩 ＜平成32年4月＞ リハビリテーション学
兼任	准教授	江口 賀子 ＜平成32年4月＞ 関連職種連携演習
兼任	講師	加藤 稔子 ＜平成30年4月＞ 生活支援
兼任	講師	岡部 由紀夫 ＜平成30年4月＞ 地域連携
兼任	講師	飯盛（小倉）啓生 ＜平成30年10月＞ 地域連携 地球環境科学
兼任	講師	甲木 秀典 ＜平成30年4月＞ 健康運動科学 関連職種連携演習
兼任	講師	園部 ニコル ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & World Issues) Global Communication (English) 語学研修
兼任	講師	熊川 景子 ＜平成30年4月＞ 日本事情 (Japanese & World Issues) 病態栄養学 ※
兼任	講師	三隅 幸子 ＜平成30年10月＞ 病態栄養学 ※ 関連職種連携論 関連職種連携演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任 講師	小松 洋平 ＜平成31年10月＞	関連職種連携論 関連職種連携演習
兼任 助教	児島 百合子 ＜平成30年4月＞	生活支援
兼任 助教	高元 宗一郎 ＜平成30年4月＞	地域連携 情報処理入門 情報処理基礎
兼任 講師	濱田 隆 ＜平成30年4月＞	文学と言語
兼任 講師	川副 義敦 ＜平成30年10月＞	肥前の歴史と文化
兼任 講師	長谷川 隆史 ＜平成30年10月＞	脳と認知科学
兼任 講師	森内 剛史 ＜平成30年10月＞	脳と認知科学
兼任 講師	児玉 弘 ＜平成30年4月＞	法学
兼任 講師	安藤 高行 ＜平成30年10月＞	日本国憲法
兼任 講師	桂藤 幸憲 ＜平成30年4月＞	くらしと経済
兼任 講師	高橋 忠夫 ＜平成30年4月＞	生命のしくみ 生物と環境
兼任 講師	上山 和俊 ＜平成30年4月＞	統計学の基礎
兼任 講師	福井 市男 ＜平成30年4月＞	身近な世界の物理学
兼任 講師	大西 真果 ＜平成30年4月＞	フィットネス・スポーツ ウェルネス・スポーツ
兼任 講師	荒木 雪業 ＜平成30年4月＞	グローバル化と異文化共生
兼任 講師	永吉 守 ＜平成30年10月＞	文化人類学
兼任 講師	浅岡 高子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	中村 直子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	徳永 ヴェラ ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	太田 真紀子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues) 日本語初級 日本語中級 日本語上級
兼任 講師	綱 智子 ＜平成30年10月＞	Basic English I Basic English II 資格英語 (ESP)
兼任 講師		
兼任 講師	Dodgson Patrick Daniel ＜平成30年4月＞	Global English I Global English II 医療英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任 講師	小松 洋平 ＜平成31年10月＞	関連職種連携論 関連職種連携演習
兼任 准教授	福山 隆志 ＜平成30年4月＞	生活支援
兼任 助教	松尾 義史 ＜平成30年10月＞	脳と認知科学
兼任 講師	高元 宗一郎 ＜平成30年4月＞	地域連携 情報処理入門
兼任 講師	濱田 隆 ＜平成30年4月＞	文学と言語
兼任 講師	川副 義敦 ＜平成30年10月＞	肥前の歴史と文化
兼任 講師	長谷川 隆史 ＜平成30年10月＞	脳と認知科学
兼任 講師	児玉 弘 ＜平成30年4月＞	法学
兼任 講師	井上 重紀 ＜平成30年10月＞	日本国憲法
兼任 講師	桂藤 幸憲 ＜平成30年4月＞	くらしと経済
兼任 講師	高橋 忠夫 ＜平成30年4月＞	生命のしくみ 生物と環境
兼任 講師	上山 和俊 ＜平成30年4月＞	統計学の基礎
兼任 講師	福井 市男 ＜平成30年4月＞	身近な世界の物理学
兼任 講師	大西 真果 ＜平成30年4月＞	フィットネス・スポーツ ウェルネス・スポーツ
兼任 講師	荒木 雪業 ＜平成30年4月＞	グローバル化と異文化共生
兼任 講師	永吉 守 ＜平成30年10月＞	文化人類学
兼任 講師	浅岡 高子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	永松 直子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	徳永 ヴェラ ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	太田 真紀子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師		
兼任 講師	谷口 なおみ ＜平成30年4月＞	日本語初級 日本語中級 日本語上級
兼任 講師	綱 智子 ＜平成30年10月＞	Basic English I Basic English II 資格英語 (ESP)
兼任 講師		
兼任 講師	Dodgson Patrick Daniel ＜平成30年4月＞	Global English I Global English II 医療英語
兼任 講師	Erio Rasohke ＜平成30年4月＞	Global English I 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任 講師	小松 洋平 ＜平成31年10月＞	関連職種連携論 関連職種連携演習
兼任 准教授	福山 隆志 ＜平成30年4月＞	生活支援
兼任 助教	松尾 義史 ＜平成30年10月＞	脳と認知科学
兼任 講師	高元 宗一郎 ＜平成30年4月＞	地域連携 情報処理入門
兼任 講師	濱田 隆 ＜平成30年4月＞	文学と言語
兼任 講師	川副 義敦 ＜平成30年10月＞	肥前の歴史と文化
兼任 講師	長谷川 隆史 ＜平成30年10月＞	脳と認知科学
兼任 講師	児玉 弘 ＜平成30年4月＞	法学
兼任 講師	井上 重紀 ＜平成30年10月＞	日本国憲法
兼任 講師	桂藤 幸憲 ＜平成30年4月＞	くらしと経済
兼任 講師	高橋 忠夫 ＜平成30年4月＞	生命のしくみ 生物と環境
兼任 講師	上山 和俊 ＜平成30年4月＞	統計学の基礎
兼任 講師	福井 市男 ＜平成30年4月＞	身近な世界の物理学
兼任 講師	大西 真果 ＜平成30年4月＞	フィットネス・スポーツ ウェルネス・スポーツ
兼任 講師	荒木 雪業 ＜平成30年4月＞	グローバル化と異文化共生
兼任 講師	永吉 守 ＜平成30年10月＞	文化人類学
兼任 講師	浅岡 高子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	永松 直子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	徳永 ヴェラ ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師	太田 真紀子 ＜平成30年4月＞	日本事情 (Japanese & World Issues)
兼任 講師		
兼任 講師	谷口 なおみ ＜平成30年4月＞	日本語初級 日本語中級 日本語上級
兼任 講師	綱 智子 ＜平成30年10月＞	Basic English I 資格英語 (ESP)
兼任 講師	岸山 智子 ＜令和元年10月＞	Basic English II
兼任 講師	江口 京子 ＜平成31年4月＞	医療英語
兼任 講師	Erio Rasohke ＜平成30年4月＞	Global English I 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ Global English II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	Gareth Newbold ＜平成30年4月＞ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	阿依努爾・巴拉提 ＜平成30年4月＞ 中国語
兼任	講師	文 芝瑛 ＜平成30年10月＞ 韓国語
兼任	講師	村田 祐造 ＜平成30年4月＞ 看護形態機能学Ⅰ
兼任	講師	熊本 崇一 ＜平成30年4月＞ 看護形態機能学Ⅱ
兼任	講師	葛満池 健夫 ＜平成30年10月＞ 免疫と感染
兼任	講師	寺本 憲功 ＜平成31年4月＞ 臨床薬理学
兼任	講師	城 圭一郎 ＜平成30年10月＞ 形態栄養学 ※
兼任	講師	向井 常博 ＜平成30年10月＞ 病理学
兼任	講師	草野 洋介 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅰ（呼吸・循環器）
兼任	講師	尾崎 岩太 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	加藤 雅人 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	隅 健次 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	坂田 泰志 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	野口 満 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	東武 昇平 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	有働 和馬 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	鶴崎 政志 ＜平成31年4月＞ 形態治療学Ⅲ（筋・骨格、感覚器）
兼任	講師	佐藤 武 ＜平成31年4月＞ 形態治療学Ⅳ（神経・眼科、精神疾患）※
兼任	講師	萩尾 洋介 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	松尾 宗明 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	岩永 学 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	尾形 善康 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	熊本 崇 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	大塚 泰史 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	埴内 俊彦 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	古賀 大介 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	前田 寿幸 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	Hashimoto (Gonthier) Rumi ＜平成30年10月＞ 自己開発学 自己開発学演習 自己開発学実習 国際看護学 補充・代替医療

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	小野 博 ＜平成30年4月＞ Global Communication (English)
兼任	講師	Gareth Newbold ＜平成30年4月＞ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	阿依努爾・巴拉提 ＜平成30年4月＞ 中国語
兼任	講師	文 芝瑛 ＜平成30年10月＞ 韓国語
兼任	講師	村田 祐造 ＜平成30年4月＞ 看護形態機能学Ⅰ
兼任	講師	熊本 崇一 ＜平成30年4月＞ 看護形態機能学Ⅱ
兼任	講師	葛満池 健夫 ＜平成30年10月＞ 免疫と感染
兼任	講師	寺本 憲功 ＜平成31年4月＞ 臨床薬理学
兼任	講師	城 圭一郎 ＜平成30年10月＞ 形態栄養学 ※
兼任	講師	向井 常博 ＜平成30年10月＞ 病理学
兼任	教授	草野 洋介 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅰ（呼吸・循環器）
兼任	講師	尾崎 岩太 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	加藤 雅人 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	隅 健次 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	坂田 泰志 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	野口 満 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	東武 昇平 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	有働 和馬 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	鶴崎 政志 ＜平成31年4月＞ 形態治療学Ⅲ（筋・骨格、感覚器）
兼任	講師	佐藤 武 ＜平成31年4月＞ 形態治療学Ⅳ（神経・眼科、精神疾患）※
兼任	講師	萩尾 洋介 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	松尾 宗明 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	岩永 学 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	尾形 善康 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	熊本 崇 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	大塚 泰史 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	埴内 俊彦 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	古賀 大介 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	前田 寿幸 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	Hashimoto (Gonthier) Rumi ＜平成30年10月＞ 自己開発学 自己開発学演習 自己開発学実習 国際看護学 補充・代替医療

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	小野 博 ＜平成30年4月＞ Global Communication (English)
兼任	講師	Gareth Newbold ＜平成30年4月＞ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ Global English I Global English II
兼任	講師	阿依努爾・巴拉提 ＜平成30年4月＞ 中国語
兼任	講師	文 芝瑛 ＜平成30年10月＞ 韓国語
兼任	講師	村田 祐造 ＜平成30年4月＞ 看護形態機能学Ⅰ
兼任	講師	熊本 崇一 ＜平成30年4月＞ 看護形態機能学Ⅱ
兼任	講師	葛満池 健夫 ＜平成30年10月＞ 免疫と感染
兼任	講師	城 圭一郎 ＜平成30年10月＞ 形態栄養学 ※
兼任	講師	向井 常博 ＜平成30年10月＞ 病理学
兼任	教授	草野 洋介 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅰ（呼吸・循環器）
兼任	講師	尾崎 岩太 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	加藤 雅人 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	隅 健次 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	坂田 泰志 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	野口 満 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	東武 昇平 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	有働 和馬 ＜平成30年10月＞ 形態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）※
兼任	講師	鶴崎 政志 ＜平成31年4月＞ 形態治療学Ⅲ（筋・骨格、感覚器）
兼任	講師	佐藤 武 ＜平成31年4月＞ 形態治療学Ⅳ（神経・眼科、精神疾患）※
兼任	講師	萩尾 洋介 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	松尾 宗明 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	岩永 学 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	尾形 善康 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	熊本 崇 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	大塚 泰史 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	埴内 俊彦 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	西 真樹 ＜令和元年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	前田 寿幸 ＜平成31年10月＞ 形態治療学Ⅴ（小児の疾病、婦人科疾患）※
兼任	講師	Hashimoto (Gonthier) Rumi ＜平成30年10月＞ 自己開発学 自己開発学演習 自己開発学実習 国際看護学 補充・代替医療

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	Shibata, katrina Nanako ＜平成30年10月＞	兼任	講師	Shibata, katrina Nanako ＜平成30年10月＞	兼任	講師	Shibata, katrina Nanako ＜平成30年10月＞
		自己開発学 自己開発学演習 自己開発学実習 補完・代替医療			自己開発学 自己開発学演習 自己開発学実習 補完・代替医療			自己開発学 自己開発学演習 自己開発学実習 補完・代替医療
兼任	講師	渡邊 智恵 ＜平成33年10月＞	兼任	講師	渡邊 智恵 ＜平成33年10月＞	兼任	講師	渡邊 智恵 ＜平成33年10月＞
		災害看護学			災害看護学			災害看護学
			兼任	講師	古賀 靖之 ＜平成30年10月＞	兼任	講師	古賀 靖之 ＜平成30年10月＞
					心理学入門			心理学入門
						兼任	講師	藤田 由美子 ＜令和元年10月＞
								ジェンダー論
兼任	講師					兼任	講師	小山 裕子 ＜平成31年4月＞
								新田協栄学庁（神奈・福岡、福岡県） 実

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。

その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。

- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
- ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実（実）、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・大家さとみ准教授の「教職センター」兼業就任のため、担当科目より「あすなろうⅠ基礎（初年次教育含）」、「あすなろうⅡ応用（地域課題）」、「あすなろうⅢ臨地協働」の担当を削除 ・福浦善友講師が専任教員就任辞退のため削除。後任については公募を行う予定。 ・平川忠敏教授の辞職のため、後任の原田純治教授へ変更したが、原田純治教授の病欠のため古賀靖之兼任講師に変更した。 ・酒井出教授ご逝去のため、田中豊治教授へ変更 ・柳田晃良教授の退職のため兼任講師へ職位変更 ・教育的効果を考慮し、古賀浩二教授の担当科目より「情報処理入門」を削除 ・児島百合子助教退職のため、福山隆志准教授に変更 ・教育的効果を考慮し、高元宗一郎助教の担当科目より「情報処理基礎」を削除 ・高元宗一郎助教の異動のため、職位を講師に変更 ・教育的効果を考慮し、「日本国憲法」の担当を佐賀キャンパス担当安藤高行兼任講師より神埼キャンパス担当の井上亜紀兼任講師へ変更 ・中村直子兼任講師の姓名変更のため永松直子兼任講師に変更 ・太田真紀子兼任講師の担当辞退のため、「日本語初級」、「日本語中級」、「日本語上級」の担当を谷口なおみ兼任講師へ変更 ・教育的効果を考慮し、「Global EnglishⅠ」、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」の担当にEric Raschke兼任講師を追加 ・教育的効果を考慮し、「Global Communication (English)」の担当に小野博兼任講師を追加 ・草野洋介兼任教員が平成30年4月付本学健康栄養学科専任教員に就任されたため、「兼任」を「兼任」に「講師」を「教授」に変更

【令和元年度】

・教育的効果を考慮し、平成31年度「あすなろうⅠ基礎（初年次教育含）」は、岡崎美智子教授、白田久美子教授、鷹居樹八子教授、中島洋子教授、馬場才悟准教授、床島正志准教授、上野恭子准教授、葛原誠太講師、仲道由紀講師、森本真寿代講師、上野幸子講師、村岡早苗講師、南里玲子講師、平原直子講師、大庭悠希助教、藤本奈緒子が担当。 ・教育的効果を考慮し、平成31年度「あすなろうⅡ応用（地域課題）」は、岡崎美智子教授、鷹居樹八子教授、小林幸恵准教授、池田佐知子准教授、古川久美子講師、葛原誠太講師、仲道由紀講師、上野幸子講師、村岡早苗講師、南里玲子講師、平原直子講師、大坪奈保助教、大庭悠希助教、藤本奈緒子、宮崎みゆき助教が担当。 ・吉田恭子講師が専任講師辞退のため削除。後任として平原直子講師を専任補充「平成31年1月教員審査済」。一部の科目担当が不可であったため、該当科目の担当については補充のため募集を行う予定。 ・前原宏美講師が専任講師退職のため削除。後任については募集を行う予定。「看護過程論」、「生活支援技術論」、「生活支援技術論演習」、「臨床関連技術論演習」「関連職種連携論」については平原直子講師の科目追加として専任教員資格審査を申請中である。 ・森田夏代講師の就任については平成31年4月着任予定であったが、現職の都合等により令和元年10月より就任予定。 ・香川せつ子兼担教授退職のため、兼任講師へ変更。 ・香川せつ子兼担教授退職に伴い、「ジェンダー論」の担当を藤田由美子兼任講師へ変更。 ・太田保之兼担教授退職のため、小山裕子兼任講師に変更。 ・山田力也准教授の職位変更のため、職位を「准教授」より「教授」へ変更。 ・山田力也教授の職位変更に伴い、講義時間数の見直しのため「フィットネス・スポーツ」の担当を山田力也教授より福本敏雄教授へ変更 ・Dodgson Patrick Daniel兼任講師の辞退のため、「Global EnglishⅠ」及び「Global EnglishⅡ」をGareth Newbold兼任講師へ、「医療英語」を江口京子兼任講師へ変更。 ・教育的効果を考慮し、「Global EnglishⅡ」の担当にEric Raschke兼任講師を追加。 ・時間割調整の都合のため「Basic EnglishⅡ」の担当を綱智子兼任講師より幸山智子兼任に変更。 ・寺本憲功兼任講師辞退のため、藤戸博兼任講師に変更。 ・古賀大介兼任講師辞退のため、西真範兼任講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ー① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) ー② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
7	7	13	5	32	4	6	8	4	22
(3)	(4)	(5)	(2)	(14)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
7	7	11	5	30	7	7	13	5	32
[-]	[-]	[Δ2]	[-]	[Δ2]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・ **「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ー③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
教 授：68歳 准教授：65歳 その他の教職員 ：60歳	7	11
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
- [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ー④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{32} = \boxed{93.75} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ー⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{7}{22} = \boxed{31.81} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	福浦 善友	H29. 9	必修	あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）	①	H29. 9一身上の都合により就任辞退（30）						
				必修	あすなろうⅡ 応用（地域課題）	①							
				必修	あすなろうⅢ 臨地協働	①							
				必修	生活支援論実習	①							
				必修	看護過程論実習	①							
				必修	精神看護学方法論	①							
				必修	精神看護学実習	①							
				選択	関連職種連携演習	①							
				選択	家族看護学	①							
				必修	看護研究方法論	①							
				必修	看護研究ゼミナール	①							
2	講師	吉田 恭子	H30. 4	必修	あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）	①	H30. 4一身上の都合により就任辞退（元）						
				必修	あすなろうⅡ 応用（地域課題）	①							
				必修	あすなろうⅢ 臨地協働	①							
				必修	生活支援論実習	①							
				必修	看護過程論実習	①							
				必修	老年看護学方法論	③							
				必修	老年看護学実習	③							
				選択	関連職種連携演習	①							
				選択	看護管理実習	①							
				必修	看護倫理学	①							
				必修	看護研究ゼミナール	①							
				合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）					
2	人	必修	18	科目	必修	16	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	22	科目	計	20	科目	計	0	科目	計	2	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	講師	前原 宏美	H30. 3. 31	必修	あすなろうⅠ 基礎（初年次教育舎）	①	H31. 3. 31付け一身上の都合により辞任（元）			
				必修	あすなろうⅡ 応用（地域課題）	①				
				必修	あすなろうⅢ 臨地協働	①				
				必修	看護過程論	①				
				必修	生活支援技術論	①				
				必修	生活支援技術論演習	①				
				必修	臨床関連技術論演習	①				
				必修	生活支援論実習	①				
				必修	看護過程論実習	①				
				必修	関連職種連携論 ※	①				
				選択	関連職種連携演習	①				
				選択	関連職種連携実習	①				
				必修	看護研究ゼミナール	①				
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人	必修	11	科目	必修	11 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	2	科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	13	科目	計	13 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
3	人	必修	29 科目	必修	27 科目	必修	0 科目	必修	2 科目		
		選択	6 科目	選択	6 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	35 科目	計	33 科目	計	0 科目	計	2 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{32} = 9.37 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況
該当なし

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由					
合 計					後任補充状況の集計						
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
人		必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

福浦善友氏の後任については、「あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）」「あすなろうⅡ 応用（地域課題）」「あすなろうⅢ 臨地協働」「生活支援論実習」「看護過程論実習」「精神看護学方法論」「精神看護学実習」「関連職種連携演習」「看護研究方法論」「看護研究ゼミナール」が担当できる専任教員を補充する予定である。

学内での教員審査を経て、令和元年10月にAC教員審査書類を提出し、12月の審査結果を得て、令和2年4月1日付で採用を行う予定である。学生への指導体制として、令和元年前期に開講予定の「看護過程論実習」は、設置申請通り非常勤実習指導者3名あて。令和元年後期から開講予定の「家族看護学」は、福浦氏担当予定科目であったが、平成31年4月1日採用の平原直子講師が、AC教員審査において「家族看護学」は「可」の判定を受けたので担当する。

吉田恭子氏の後任については、前述のAC教員審査を受けた平原直子講師を平成31年4月1日から採用した。担当科目は、「あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）」「あすなろうⅡ 応用（地域課題）」「あすなろうⅢ（臨地協働）」「生活支援論実習」「看護過程論実習」「関連職種連携演習」「看護管理実習」「看護倫理学」「看護研究ゼミナール」「家族看護学」で、AC教員審査にて「可」判定を受けた。ただし、「老年看護学方法論」「老年看護学実習」が「不可」と判定され、専任教員の補充を受けて適任者の募集を行っている。令和元年度後期開講予定の「老年看護学方法論」は、老年看護学領域の教授1名と講師1名で授業及び演習を担当し、学生への周知は、平原氏は講師として4月1日から、「あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）」を担当する教員として全学生に紹介し、ゼミ生8名を担当し教育実践を行っている。

前原宏美氏の後任については、「あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）」「あすなろうⅡ 応用（地域課題）」「あすなろうⅢ 臨地協働」「看護過程論」「生活支援技術論」「生活支援技術論演習」「臨床関連技術論演習」「生活支援論実習」「看護過程論実習」「関連職種連携演習」「関連職種連携実習」「看護研究ゼミナール」を担当できる専任教員を補充する予定である。

学内での教員審査を経て、令和元年10月にAC教員審査書類を提出し、12月の審査結果を得て、令和2年4月1日付で採用を行う予定である。

平成31年4月から令和2年3月までの学生の指導体制として、「看護過程論」「生活支援技術論」「生活支援技術論演習」「臨床関連技術論演習」「関連職種連携演習」については、平原直子講師に係るAC教員審査書類を平成31年3月に提出済である。加えて平成31年4月から開講する前述の授業及び演習については、教員審査において「可」と判定されたもので共同及びオムニバスとして実施する。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (2018年)	運動場及び体育館が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	運動場及び体育館を使用する正課の授業科目である「健康スポーツのフィットネス・スポーツ」等は、本学神埼キャンパスで実施され、授業時間に合わせてスクールバスを運行し支障が無いようにしている。 その区間は、既運行のJR神埼駅・佐賀駅から神埼キャンパスへの便と、新たに小城キャンパス（看護学部）の最寄りの駅であるJR牛津駅（小城駅経由）から神埼キャンパスへの便を増発している。 また、課外活動においては、新入生へ他学部生既存のサークル紹介をし、活動をし始めつつあり、移動については、前述のスクールバスを、その他JRや自家用車（学生用駐車場整備）を用いて支障が無いようにしている。 なお、小城キャンパス（看護学部）でスポーツ系サークル等を設立する場合には、小城市有の小城公園グラウンド、小城体育センター等や隣接の桜岡小学校のグラウンド、体育館を放課後に利用（要予約）することができるよう小城市と協議を済ましている。	履行済

認可時 (2018年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	留意事項	本学部学科では完成年度を迎えるまでに定年を超える教授が多く含まれている。完成年度までの教育課程を遂行していくために必要不可欠な人材である。就業規則の附則に定年延長の措置を講じており、当該教員は完成年度まで雇用を確保している。 平成30年4月就任した専任教員は、教授3名、准教授4名、講師5名、助教2名の14名であった。大学教育の豊かな経験者である年齢の高い3名の教授の智慧を必要とすることが多々あり、准教授、講師、助教のモデルとなる学部学科の運営を行った。加えて、外部研究費として科学研究費を3名の教員が新たに獲得できたことは、研究の充実を図る準備状況ができたことになる。 平成31年4月開学2年目に新たに9名の専任教員の就任を得た。教授1名は老年看護学を担当しながら学科長として、准教授2名は成人看護学と母性看護学の授業と実習施設の拡大及び3年目の実習指導の準備を担当し、講師4名、助教2名は2年目の教育課程の充実を図り、広大連携授業に貢献する予定である。さらに、平成30年4月から計画実施した企画を、踏襲しながら内容の充実と発展に寄与することが期待できる。	履行中	令和元年10月から成人看護学の講師1名の就任を予定しており、さらなる教育課程の充実及び高大連携事業等の企画にシミュレーション教育を積極的に取り入れる計画である。令和2年4月には、教授3名は在宅看護学、小児看護学、公衆衛生学を担当し、准教授1名は小児看護学、講師3名は基盤看護学、精神看護学、看護管理学、助教1名は公衆衛生看護学を担当する予定である。完成年度までに教員組織を充実し、学生の授業評価を教員へフィードバックして教育力を向上させ有機的な教育課程を展開する計画である。加えて、学部内外の委員会活動の活性化と、科学研究費等の外部資金の獲得に全教員が参加することを目標とする。 年齢の高い教授が完成年度を迎え退職後、現在准教授の職位の教員を教授に昇格する予定である。そのことは、完成年度を迎えた暁に、教員組織が崩れることなく大学教育及び運営が維持できるように准教授の年齢構成にも配慮している。講師及び助教の平均年齢は40歳から50歳前後であり、完成年度までに教育・研究実績を積む努力を自助共助のもとに行う。さらに、准教授、講師、助教は教授の教育方法や学生指導、臨地実習指導を学ぶ機会を多く経験できるようにFD活動、委員会活動、公開講座を計画的に行う。さらに、相互に学術的な交流ができるように科研費及び学会活動を行い、優れた教授の人的資源を有効に活用している。
設置計画履行状況 調査時 (2018年)	該当なし				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

該当なし

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

西九州大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を置き、FD活動を実施している。
※西九州大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程を添付

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年度は4、6、8、10月及び3月に開催。
委員構成は副学長、研究科長、各学部長、教務部長、教務部副部長、各学科教員13人、事務局長の計24名。

c 委員会の審議事項等

- ・ 中期目標・中期計画に基づくアクションプログラムのH30年度活動状況の確認とH31年度活動計画について
- ・ FD研修会の開催について
- ・ 教育研究活動の活性化について

② 実施状況

a 実施内容

- 1) 「学修成果の可視化」の実質化に向けて
(各学部長、学科長、FD委員、教務委員対象)
- 2) 「見えないものを見る—学修成果の可視化について改めて考える」
(西九州大学・西九州大学短期大学部FD合同研修会)
- 3) 「平成31年度科学研究費助成事業の公募等について」
「科研費獲得には何が必要か」
「九州西部地域大学・短期大学産学官連携プラットフォームについて」
「個人業績調書のWeb入力について」
(西九州大学・西九州大学短期大学部FD合同研修会)
- 4) 「授業評価の取り組みについて～佐賀大学での取組や公開の意義等より～」
(教務委員対象)
- 5) 「平成31年度シラバス作成の留意点」
「授業におけるICT活用の推進」
(西九州大学・西九州大学短期大学部FD合同研修会)

b 実施方法

- 1) 講演会形式
- 2) 講演会形式及びワークショップ
- 3) 講演会形式
- 4) 講演会形式
- 5) 講演会形式

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- 1) 平成30年5月24日開催。専任教員41名参加。
- 2) 平成30年7月26日開催。教員77名、職員4名、計81名参加。
- 3) 平成30年9月20・21・26日開催。教員109名、職員21名、計130名参加。
- 4) 平成30年9月20日開催。教員22名、職員2名、計24名参加。
- 5) 平成30年12月6日開催。教員61名、職員4名、計65名参加。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- 1) 主に学修成果の査定に必要な基準設定について知識を醸成し、学修成果の可視化に向けての意識を深めることができた。
- 2) 学修成果の可視化の意義やメリット・デメリット等をワークショップで話し合い、今後は初等・中等教育で自己理解力を身に付けた学生が入学してくるので、その接し方を考えていく時期に入っていることを共有した。
- 3) ・科学研究費申請の変更点及び注意点についての説明がなされ、申請における要点について、獲得例を基にその知識を醸成した。
・私立大学等改革総合支援事業のタイプ5「プラットフォーム形成」応募についての説明及び、新設された発展型に応募することが報告、共有された。
・教育・研究リソース検索システム更新の概要や具体的な操作方法について説明があった。また、教員個人調書及び研究業績書作成機能が追加されたことにより、文科省様式の「教員調書」や「研究業績書」がWeb入力で作成可能になったことが報告され、共有された。
- 4) 他大学での授業評価の取組事例から、本学の取組における改善可能点を見出すことができた。
- 5) シラバス作成において、授業方法（アクティブ・ラーニング等）や実務家教員に関する表記を徹底した。
ICTを活用した教育の実例に触れ、今後の授業におけるICT活用方法の知識を醸成した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期と後学期のそれぞれに、中間（記述式、前期5月・後期11月）と学期末にWebによる調査（選択式及び記述式、前期7月・後期1月）1回実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各教員の集計結果について当該教員へポータルサイトにて周知するとともに、学生も閲覧できるよう「学生による授業評価アンケートに関する報告書」を図書館及び大学ホームページで公開。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学において策定する中期目標・中期計画に基づき計画した毎年度のアクションプログラム（総括）にて、自己点検・評価を行っている。

a. 教員組織について

教員組織は、設置計画通りに2019年4月1日から9名の専任教員（教授1名、准教授2名、講師4名、助教2名）、10月1日から講師1名の就任を予定している。昨年から就任した教員13名に加え、2019年4月1日現在の専任教員数は、23名である（教授4名、准教授6名、講師9名、助教4名）。教員組織については、看護学部看護学科の教育環境を整備し、学生の受け入れ及び計画通りの委員会活動を開始し学部内の運用及び学内委員会活動、公開講座への参加、他学部授業の兼担業務を遂行している。専任教員のうち准教授1名は、専門領域が学校保健であるため、2018年4月から大学の教職センターと看護学科教職を兼担している。

b. 授業に関すること

授業に関することは、入学前教育において高校推薦入試及び学校長推薦入試後の学習習慣を維持しながら大学へ入学することと、高等学校までの基礎学力として英語と数学のIRT診断テストの結果を参考にしてきた。

本学の建学の精神でもある「あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）（必修）」の初年次教育「あすなろうⅡ 応用（地域課題）」は、通年で全教員7～8名の学生をゼミナール方式で専門職へ移行する学生1・2年次の学修指導を行う。全教員の指導内容の格差を是正するために、各教員のグループ指導と一斉授業とのバランスを図る努力をする。

授業の開講状況は、共通教育、専門基礎教育、専門教育とも、教育課程に沿って時間割が設定されているが、1年次後期の専門基礎科目「いのちの科学」の時間割がタイトになる傾向が是正できなかった。その要因は、科目担当の非常勤講師数が多く、時間割が予定通り組み込めない実情があった。学生の欠席及び遅刻は後期に目立ち、特定の学生であったがアルバイトとの両立が出来ず単位未修得の学生を若干名排出し、保護者、学生、チューター、学部長の4者面談を行った。また、GPA2.3以下の学生についても保護者、学生、チューター面談を行い、次年度以降の履修指導を強化した。出欠はカードリーダを通して確認しているが、毎時間の課題学修及び時間内の10分間レポート提出と双方の確認を行い、学生の授業への出欠を教員と教務課職員の双方で把握している。欠席が3回以上続く学生は教務課及びチューターに連絡するシステムをとっている。

c. 教室、実習室、ゼミ室、図書館、PCルーム等の施設利用

講義室、演習室、実習室、ゼミ室、アクティブラーニング・ゼミ室、図書館、PCルームは有効に活用されている。2年目を迎え、学生数190名となった。教育課程に沿って授業・演習・学内実習を計画し、有効に活用している。ゼミ室は「あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）」で、13グループ、「あすなろうⅡ 応用（地域課題）」では、学修内容に沿って6グループ、18グループ、24グループ編成を行っているため実習室、ゼミ室、図書館、PCルームはフル稼働である。施設利用が重複しないように、PCシステムを利用した予約制度を設けている。1・2・3号館の学生ラウンジは、床・机・椅子をベージュを基調に明るい色彩であるため、談話と会食を楽しんでいる風景が休憩時間、放課後に見られる。学食は、利用学生の半数は弁当持参者も見受けられる。地域住民の方も、学食及び図書館の利用は毎日誰かが利用している。

看護学部看護学科は小城キャンパスに単一学部学科として存在するため、共通教育は神埼キャンパスへ週2日、他の学部学科の学生と共に授業を受け、サークル活動、大学祭も共同で行えるように、学生支援を行っている。キャンパス間の移動は、スクールバスの配慮をしている。

d. 総括

設置の趣旨及び目的の達成状況は、おおむね計画通りに遂行されている。今後も、大学教育の経験豊かな教授、准教授を核として、講師、助教を育てながら、共に看護学部看護学科の教育内容を充実できる基盤づくりの努力を重ねたい。

② 自己点検・評価報告書

本学において策定する中期目標・中期計画に基づき計画した毎年度のアクションプログラム（総括）にて、自己点検・評価を行っている。

a. 公表（予定）時期

- ・「西九州大学点検・評価に関する規程」第8条に基づき、4年を超えない範囲で公表する。

b. 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成35年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年9月頃 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

西九州大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(趣旨)

第1条 西九州大学（以下「本学」という。）のファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 委員会は、本学の教育の理念・目標及び教育内容・方法に関する組織的な研究、研修の円滑な実施を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 委員会は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 定期的なファカルティ・ディベロップメント講演会、研修会等の企画及び実施に関すること。
- (2) その他本学のファカルティ・ディベロップメントに関すること。

(組織)

第4条 委員会は次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 生活支援科学研究科長
- (3) 各学部長
- (4) 教務部長
- (5) 教務部副部長
- (6) 各学科から選出された専任教員2人
- (7) 事務局長

(任期)

第5条 前条第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前条第6号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会には委員長を置き、委員長は副学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(会議の開催及び議決)

第7条 委員会は、委員長が必要と認めたとき、又は過半数の委員から要請があったときに、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第9条 事業を円滑に遂行するために、委員会が必要と認めたときは専門委員会を置くことができる。

- 2 委員会が必要と認めた時は、専門委員会に委員以外の者を加えることができる。

(事務局)

第10条 委員会に関する事務は、教務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則（平成21年7月16日 制定）

- 1 この規程は、平成21年7月16日から施行し、平成21年4月1日から適用する。
- 2 この規程施行後、最初に委嘱される第4条第1項第5号に規定する委員の任期は、第5条第1項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

附 則（平成24年5月17日）

この規程は、平成24年5月17日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

附 則（平成26年3月6日）

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 社会福祉学科、スポーツ健康福祉学科及び心理カウンセリング学科の委員は、第4条第1項第6号の規定にかかわらず当分の間1人とする。

附 則（平成27年2月12日）

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。